

輸 血 部

教授：星 順隆

研究概要

1) 輸血の安全管理（特に自己血輸血の安全管理）：自己血に混入する細菌の同定方法の開発。

2) 適正輸血の推進に関する検討：院内の血液製剤の使用状況の解析を行い、適正輸血の推進に有用な方策を選定する。

3) 輸血検査機器の開発

「点検・評価」

2005年度に第53回日本輸血学会学術総会を主催した影響で、体力気力ともにやや減退した。しかし、前年に発表しなかった分も加えて、第54回学術総会では5題の発表を行った。今日、輸血副作用の主たるものは細菌感染症と TRALI(急性肺障害)であり、原因究明と予防法の開発が求められているために、研究の主体も細菌混入の同定法の開発に力をいれた。大坪は、日本輸血学会総会および自己血輸血学会学術総会にその結果を発表し、評価を受けたことを考えると、研究では満足できる結果であった。

教育は例年通りの対応であり、進展はなかったが、次年度(平成19年度)には講義枠も拡大され、学会推奨の輸血教育カリキュラムに近づけられそうである。

星は、日本輸血学会法人化担当幹事として、学会をまとめ、18年4月に法人申請に至った。その後、法人事業のと運営を軌道にのせるために引き続き法人担当理事として活動している。

従って、自己評価では80点のできと考えているが、前年示した、大学院規定の論文数の作成目標は大きく後退したことが残念である。

研究業績

I. 原著論文

- 1) 藤井康彦(山口大学), 松崎道男(虎ノ門病院), 宮田茂樹(国立循環器センター), 東谷孝徳(北海道赤十字血液センター), 稲葉頌一(神奈川県赤十字血液センター), 浅井隆善(静岡県血液センター), 星 順隆, 稲田英一(順天堂大学), 河原和夫(東京医科歯科大学), 高松純樹(名古屋大学), 高橋考喜(東京大学), 佐川公矯(久留米大学). ABO型不適合輸血の発生原因による解析. 日輸血細胞治療会誌 2007; 53(3): 374-82.

III. 学会発表

- 1) 藤井康彦(山口大学), 下平滋隆(信州大学), 浅井隆善(静岡県赤十字血液センター), 佐竹正博(東京都赤十字血液センター), 岡崎 仁¹⁾, 日野 学¹⁾(¹⁾日本赤十字社中央血液研究所), 星順隆. 非溶血性輸血副作用の原因検索の進め方. 第54回日本輸血学会総会. 大阪, 6月. [日輸血会誌 2006; 52(2): 194]
- 2) 星 順隆, 長谷川望, 大坪寛子, 長田広司. 適正輸血の推進と問題点. 第54回日本輸血学会総会. 大阪, 6月. [日輸血会誌 2006; 52(2): 247]
- 3) 大坪寛子, 長谷川望, 星 順隆. 酸素電極による酸素消費量測定を応用した血液製剤内細菌混入の同定. 第54回日本輸血学会総会. 大阪, 6月. [日輸血会誌 2006; 52(2): 253]
- 4) 近藤恵子, 永井高史, 山崎恵美, 堀 淑恵, 山本公子, 伊藤幸子, 鶴間久美子, 市井直美, 島 誠子, 畠山節子, 長谷川望, 大坪弘子, 長田広司, 星 順隆. I & A を受審して. 第54回日本輸血学会総会. 大阪, 6月. [日輸血会誌 2006; 52(2): 296]
- 5) 大坪寛子, 星 順隆. 溶存酸素濃度測定法(DOXTM)による貯血式自己血全血製剤内の細菌検出感度. 第20回日本自己血輸血学会学術総会. 新潟, 3月. [自己輸血 2007; 20(学術総会): 69]

IV. 著 書

- 1) 星 順隆. 輸血医療. 青木照明, 小路美貴子編. 系統看護学講座 別巻1: 臨床外科看護総論. 第9版. 東京: 医学書院, 2006. p. 100-11.
- 2) 星 順隆. 自己血輸血. 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会編. スタンダード輸血検査テキスト. 第2版. 東京: 医歯薬出版, 2007. p. 195-8.

V. その他

- 1) 浅井隆善(静岡県赤十字血液センター), 佐竹正博(東京都赤十字血液センター), 藤井康彦(山口大学), 岡崎仁¹⁾, 日野 学¹⁾(¹⁾日本赤十字社), 下平滋隆(信州大学), 星順隆. 重篤な急性輸血副作用の臨床的対応に関する施設共同研究—細菌感染症(TRALIを含む)等の前方視的調査—. 厚生労働科学研究補助金 医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス総合研究事業, 「輸血用血液及び細胞治療の安全性に関する研究」平成18年度報告書. 2007.